

やまとの名品 天理図書館



むなざんようけのたなおし
胸中算用噓店卸 (草稿本)

葛飾北斎自筆
 享和2年(1802)頃 1冊
 縦20.4cm 横13.2cm

江戸時代、数学の教科書とも
言える『塵劫記』という書物が
ありました。九九・そろばん等
の基本的な事柄や、田畑の面積
計算、米の売買・利息計算など
生活に即した内容に加えて、
「継子立」「ねずみ算」などのパ
ズル的な問題も収められ、明治
に至るまで大変人気を呼んでい
ました。

本書はその『塵劫記』を下地
として、享和三年（一八〇三）
に出版された『胸中算用噺店卸』
の草稿本です。

作者並びに絵師は時太郎可候、
浮世絵画家で有名な葛飾北斎
（一七六〇〜一八四九）の別名
です。その活動は浮世絵や挿絵

の執筆に止まらず、本書のよう
な読み物、或いは俳諧書、更に
は「はしか落断」という咄本ま
で著していることは、あまり知
られていないのではないでしょ
うか。

物語は、日本の帝が遠く離れ
た国のじんこう木（沈香木と塵
劫記のもじり）を移植したいと
思い、二人の知識人を遣わすと
ころから始まりますが、筋書き
を楽しむというより、話に織り
込まれた数学の妙味を味わうと
ころに重きが置かれているよう
です。

遠くの人物の見える大きさに
よって距離を知る方法（図）や、
算盤を用いた利子の計算などに



享和3年刊本

驚かされ、「二二天作の五」など
という昔の言い回しも懐かしく
感じられます。

最後に本書からの問題です。
一斗の油を三升枡と七升枡を使
って五升ずつに分ける方法は？

（天理図書館 大西光幸）